

学習内容と到達目標

☞ 日本の有名人について学び、世界の有名人について紹介できるようになる。

指導のポイント

1. INTRODUCTION 第13課の復習。ステップ2での学習内容が定着しているか十分に確認した上で先に進む。①と②で「日本でいちばん～」や「～より～のほうが～」などの表現が出てこなかったり、③で質問にすぐに答えられなかった時は、第13課の入念な復習が必要。

2. LISTENING まず、1～8の写真の人物がだれで、何をした人かを確認する（名前は知っていても、顔は知らないという学習者が意外に多いので注意）。CDを聞いて答えを確認した後、③でディクテーションをさせ、連体修飾節の作り方の規則を考えさせる（②の選択肢は全て普通体で書かれているので、⑥以外は、難なく書き取れるはず）。

3. FOCUS ①の練習は1～4が「ヲ格」（例、「写真を京都でとりました」）、5～8が場所格（「ニ格」「デ格」「ヘ格」）、9～10が「ガ格」を扱っている。②では、節内の主語は「ハ」ではなく「ガ」で表されることに気づかせる（例、「コロンブスがアメリカ大陸を発見したのはいつですか」）。ひととおり練習が終わったら、学習者にクイズの問題を作らせてみるとよい。

4. PAIR WORK ①では、まず質問の意味が理解できるかが重要（これ以後、学内の日本人学生にアンケート調査をする時などは、これを参考に連体修飾節を使った質問文を作らせるようにする）。②は、答えを知らないものがほとんどだと思われるので、想像で答えさせるか、（最近はiPhoneなどですぐにGoogle検索ができるので）学生たちに手分けして検索させる。ただし、その場合も（想像で構わないので）あらかじめ自分の答えを用意させておく。

5. LISTENING 学習者はここに載っている人物をほとんど知らないが、選択肢が学習者の笑いを誘うようなユニークなものなので、それなりに楽しんでやってくれる（心配無用）。10番の「土方歳三」は引っかけ。最初にノーベル賞をもらった日本人は「湯川秀樹」（210ページに似顔絵あり）。

* 「日本で最初にラーメンを食べたのは誰か」など知る必要もない、いわゆる「ムダ知識」（トリビア）ではあるが、これを1つのきっかけとして、各人物の功績などについて学習者が母語で調べ、日本の歴史に興味を持つきっかけになってくれればと思ひ、作成した。

活動例

①私が尊敬する有名人

☞ [5. LISTENING] の応用編。8課で学習した「生い立ち」などと絡めてスピーチを作らせる。九大の授業では、13課で紹介した『初級からの日本語スピーチ』（凡人社）を参考に学習者にスピーチのフレームを与え、発表原稿を書かせた（今月末発表予定）。学生たちが取り上げた有名人は、ガンジーやマザーテレサなどの世界的に有名な偉人から、デイビッド・ベッカムやジェニファー・ロペスなど、現在活躍中の有名人まで多種多様であった。中には必ずしもみんなが知っているわけではないが、その国の人にとっては誇りとも言えるノーベル賞受賞者や元大統領などもいた。

②クイズショー

☞ [3. FOCUS] ② や [4. PAIR WORK] ② の応用編。①の「私が尊敬する有名人」は情報提供型（紹介型）の活動であるが、こちらは情報共有型の活動。連体修飾節を使ったクイズを学生たちに作らせ、グループ対抗のクイズ大会をする。4択問題にすると答えやすい。参考資料として16課で紹介した『24 Tasks for Basic Modern Japanese』vol.1の「クイズ」（10課）がある。

授業で使えるリソース

☞ Wikipedia の中には「世界初の一覧」「世界一の一覧」「世界最古の一覧」などの項目があり、ネタ探しに活用できる。